

ほげい船

第98号

2025年
8月

基本 理念

私達は心のこもった
医療を行い、地域に
信頼される病院となる
ことを目指します。

独立行政法人

国立病院機構高知病院

A Whaling Ship



Photo by y.nishimori

【目次】

Contents

- | | | | |
|----------------------------|---|-------------------------------|----|
| ● 暑い夏、熱い夏 | 2 | ● 四国重症心身障害研究会のご紹介 | 8 |
| ● 診療科紹介／呼吸器内科 | 3 | ● 産後ケアを始めました！ | 9 |
| ● 第13回 地域医療連携連絡会 | 4 | ● DX推進委員会活動報告 | 10 |
| ● 看護師特定行為研修修了式および開講式 | 5 | ● 医療安全管理室だより「転倒・転落予防活動」 | 11 |
| ● 療育指導室だより「春行事」 | 6 | ● 地域連携等概況 | 11 |
| ● 看護学校だより | 7 | ● 外来診療担当表 | 12 |



院長
先山 正二

暑い夏、熱い夏

今年の夏は一層暑い日が続いておりますが、皆様におかれましては体調いかがお過ごしでしょうか。

7月5日に第13回地域医療連携連絡会を開催し、日頃より当院がお世話になっている医療、介護、福祉施設、消防・救急関係の多くの方にご参加いただき、5年ぶりにコロナ禍前の形で盛会裡に実施することができました。改めて、集合による対面でのコミュニケーションの大切さを実感する機会となりました。ご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

さて、7月22日は二十四節気の「大暑」でしたが、その数日後には北海道の各地で38～39度台の観測史上最高気温が記録されました。ちなみに、2013年8月12日高知県四万十市江川崎において41.0℃が記録され、2018年7月まで国内最高気温でした。その後、埼玉県熊谷（2018年07月23日）と静岡県浜松（2020年08月17日）で記録された41.1℃が国内最高気温となっていました。本年7月30日、兵庫県柏原で41.2℃が記録され、記録が更新されました。

今年の夏は列島全域で猛暑による熱中症などの健康被害の拡大が懸念されますが、北海道ではエアコンの普及率が約4割とされ、さぞ苦勞されていると思われます。地球温暖化とそれに伴う気候変動が進行していると言われますが、私自身の感覚としてもその実感は強まっています。

グテーレス国連事務総長は2023年7月に「地球温暖化の時代は終わりました。もはやその地球沸騰化の時代が到来しました。」と述べ、この問題の深刻さと危機感を表明しました。さらに今年、「計算は明らかです。世界の長期的な気温上昇を1.5℃に抑えるというわずかな希望を抱くためには、世界の排出量のピークを今年として、それ以降は急速に削減していかなければなりません。」と警鐘を鳴らしています。

当院では2020年より省エネルギーの専門家の支援を得て環境負荷低減への取り組みを進めています。病院としての快適性を担保しつつ、綿密な調査に基づき、既存設備の効率的な運用や調整・改善を行い、電気・都市ガス・重油といったエネルギーベースでの使用量の削減を実現しています。ただし、エネルギー使用量ベースでの削減効果は認められるものの、近年のエネルギー単価の高騰により光熱水費おける費用削減効果は限定的となっています。

当院は2020年より「患者さんに優しい、職員に優しい、環境に優しい」をモットーに掲げて取り組んでいます。今後も持続可能な形で取り組みを継続してまいりたいと考えております。今後とも、地域の皆様とともに歩み、より良い医療と環境づくりに努めてまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。





内科系診療部長（呼吸器センター長）

畠山 鴨生

呼吸器内科

所属医師：（写真の後左から）新居 香織、高橋 啓輝、門田 直樹

（写真の前左から）町田 久典、畠山 暢生、竹内 栄治、岡野 義夫

呼吸器内科は、気管支～肺に関わる疾患について、診断および治療を行っています。

良性疾患では、気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患（COPD）・気管支拡張症・間質性肺炎や細菌性肺炎・肺結核症・肺MAC症などの感染性の疾患についても診療しており、悪性疾患では、肺癌を中心にアスベストの曝露などによっておこる悪性胸膜中皮腫についても診療しています。

当院は、高知市西部に位置し、主に高知市・いの町・土佐市・須崎市・佐川町などから来院される患者さんが多いですが、四万十町～四万十市などの幡多地域から紹介にて来られる患者さんも比較的多くみられています。

当科は、呼吸器内科医7名で構成されており、高知県内でも有数の規模を誇っています。

当科の特徴は、迅速な診断と治療です。特に肺癌の診断のために必須な気管支鏡検査（入院検査）は週に3回行っており、診断後、手術適応の患者さんに関しては、呼吸器外科と連携し、迅速に対応できる体制を構築しています。薬物療法が適応の患者さんにつきましても、健康保険適応内の最新治療を、いち早く提供できる体制をつくっています。肺癌の化学療法は、日々、めざましい進歩を遂げており、これ

まで治療が難しかった進行肺癌の患者さんの治療成績も改善してきています。外来化学療法室もあり、専門看護師により管理されており、通院での治療もできるだけ安全に安心して受けていただけるように努力しております。

肺結核の患者数は減少傾向ですが、全国では1年に1万人程度の新規患者さんが登録されています。当院には22床の結核病床があり、結核の専門的な治療も行っており、また、最近、増加傾向である肺MAC症に関しても、診断と専門的な治療を行っています。診断時に必要な痰の詳細な検査に関しても、専門の検査技師が、最短の時間で結果を出してくれており迅速診断につながっています。

呼吸器疾患に限らず、どの疾患であっても診断の迅速性と正確性が必要であり、その結果を元に治療を開始し、問題の解決が図れればと考えています。

現実的には、診断に苦慮したり、治療に難渋する場面もありますが、臨床医として患者さんとコミュニケーションをとりながら対応させていただきたいと考えています。

呼吸器疾患でお困りのことがありましたら、受診していただければと思います。





地域医療連携室 看護師長
深木 智与

地域医療連携室だより

第13回 地域医療連携連絡会

第13回地域医療連携連絡会を7月5日に三翠園で開催しました。高知県下の医療機関から医師や地域医療連携室職員の皆様方約70名にご出席頂き、院内参加者を合わせて140名と盛会となりましたこと、改めて御礼申し上げます。地域医療連携連絡会は、地域の医療機関の皆様方と直接お会いし、当院について知って頂くと共に当院へのご意見を頂き今後の改善や紹介受診重点医療機関のPRに活かせるよう、顔の見える連携ができることを目的に開催しています。

特別講演は、「ポストコロナを見据えた民間病院の役割」というテーマで博愛記念病院大串文隆院長（当院名誉院長）にお願いしました。コロナ感染症発生以降の対応や後遺症外来の現状についてデータを示してご講演いただき、参加された方はきっとコロナ発生から今にいたる自院の活動を重ねて聴講されていたのではないのでしょうか。また、勤務病院のご紹介をとおして、これからの地域医療を担うためには自施設の役割を



果たし、いかに地域の医療・介護施設との信頼関係を構築していくかが求められていることを改めて考える時間になりました。

診療科紹介においては、今年度はテーマを「顔の見える連携」としました。診療科ごとに一人ひとり壇上で自己紹介を行い、あわせて各診療科の動向については冊子にまとめ、お持ち帰りいただきました。

第二部の意見交換会では、ご出席いただいた皆様とテーブルを超えた活発な情報交換が行われました。改めて地域の医療機関の皆様と顔の見える関わりを行っていきたいと思えた時間でした。

私たち地域医療連携室は各施設との連携を強化し、患者さんやご家族が求める支援を行うとともに、在宅療養推進にむけて地域と医療（看護）・福祉を繋いでいけるよう、信頼される関係づくりに努めてまいります。



看護師特定行為研修修了式 および開講式

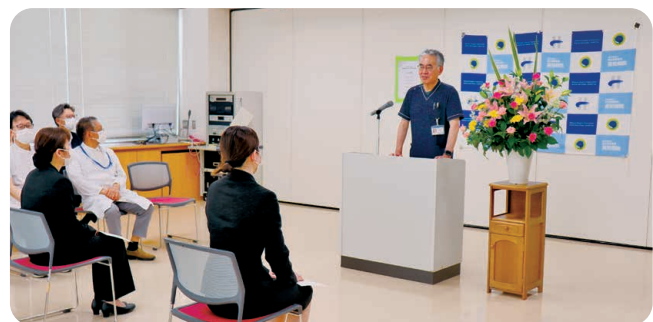


看護師特定行為研修 教育責任者
橘 緑里

2022年度より特定行為が実施できる看護師を育成する特定行為研修指定研修機関（指定番号2239003）として、呼吸関連コースとドレーン関連コースの特定行為研修を開講しています。特定行為とは、看護師が医師の指示の下で行うことができる特定の医療行為（38行為）を指し、手順書を基にタイムリーに特定行為を実施することによって、患者さんは症状の回復が早くなり、苦痛の軽減が早期に図れるというメリットがあります。特定行為研修では、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能を習得します。

研修は厚生労働省の規程に沿ってeラーニング化された教材で学習します。共通科

目では各科目において講義視聴、講義で学んだ内容を症例にあてはめディスカッションを行う演習、講義・演習で学んだ内容をシナリオに沿って課題を進めていく実習を経験した後に修了試験で合格点を獲得することで受講済みとなります。



す。また、区分別科目では講義視聴、演習、実習が終わると、患者さんに対する実技実習の前に実技試験（OSCE）を行い、OSCEに合格したら臨地実習となります。安全に特定行為を実践できる能力を養い、患者さん中心の医療を展開し、チーム医療の一員として自らの役割を確認することを目的として、指導医の監督の下で各特定行為を5症例以上実践します。臨地実習での実践が終われば、区分別科目試験を受け合格して晴れて修了となります。臨地実習は12月頃からの予定ですので、グリーンのユニフォームを着用している受講者をどうぞよろしくお願いいたします。



2024年度の研修修了者（第3期生）は、呼吸器関連コース2名、ドレーン関連コース1名でした。開講以来、研修修了者を10名（院内職員9名、院外職員

1名）輩出しています。特定行為修了者は、指導医の下で見守り実践を行い、全ての項目がA評価となった後に院内の医療安全管理委員会での承認を受け、自立実践開始となります。実践としては、年間500件以上の特定行為実践を実施しており、医療現場において安全な医療を提供しています。また、特定行為看護師連絡会での症例報告、フォローアップ研修を受講して、質の向上に努めています。

そして2025年度の看護師特定行為研修が7月1日に開講しました。今年度の受講者は呼吸器関連コースの2名です。





療育指導室 主任保育士
都 聡美

療育指導室だより

春行事

重症心身障害児（者）病棟の令和7年度最初の行事「春行事」を4月～6月に開催しました。テーマを「こうちさんぽ」として高知らしさを感じられるコーナーを設け、高知家クイズ、キャラクター探し、ハンドベル、しゃぼん玉などを楽しみながら散策を行いました。



安芸市出身の作曲家、弘田龍太郎さんのコーナーでは、「春よこい」「くつが鳴る」など懐かしい童謡をハンドベルで演奏して楽しみました。利用者のみなさんやご家族、職員が、それぞれに一つの音を担当し奏でました。ハンドベルに初めて挑戦するという方も多く、気持ちを合わせて、どうにか音を繋いでいきました。最後の一言にたどり着くと安堵感や達成感に一同が包まれ、皆で喜び合いました。

制作コーナーでは、利用者の皆さんの手形や足形を葉っぱに変身させて大きな木を作りました。NHKテレビ小説で話題の「あんぱん」のモデル、やなせたかしさんに因み「手の



ひらを太陽に」をイメージして、皆さんの手のひらの葉っぱの大きな木が太陽に向かって元気に輝く作品に仕上げました。イベントの最後は「手のひらを太陽に」の歌を皆で合唱し行事を締めくくりました。



春のひとつき、戸外を感じながらすごし、たくさんの笑顔が見ることができました。また、ご家族に参加していただき



皆で集まる行事をコロナ以降ようやく再開することができ本当にうれしく思いました。今年度も感染対策をとりながら活動を上げていけるように進めていきたいと考えています。引き続き、ご理解、ご協力よろしくお願い致します。

ワクワクする😊体験を楽しみながら、みんなで頑張っています!

看護学校 教員 露口 絵美

防災・防火訓練

令和7年5月30日(金)、地震と火災を想定した防災・防火訓練を行いました。学生にとっては、災害時に自分はどうのように行動すべきか、自分や他者の命を守るための行動を深く考える機会になっていました。訓練を重ね防災に対する意識が高まってきています。

避難時、体調不良を訴える人を発見!!



大丈夫ですか?

火事だー!!



大声で周囲に状況を知らせます!!

避難所運営ゲーム



学生は避難所運営者となり、避難所運営を擬似体験しました



何を優先すべきなんだろう?

予想せぬ様々な状況に対応中!!

迅速に判断して対応しなければ!



消防署職員から、火災発生時の対応や消火器の正しい使用方法について教わりました



チームメンバーで協力する重要性を実感!!

七夕行事

令和7年6月13日(金)～7月8日(火)までの期間、高知病院の各階ホールに七夕をイメージした飾りを掲示しました。学生は、患者さんに季節を感じてもらえる時間を提供したいという思いのもと、今年も工夫を凝らした飾りを作成し、願い事を書けるように短冊も準備しました。



患者さんに季節を感じていただけるように、学生同士協力して飾りを作成しました!



沢山の患者さん・ご家族の願いが短冊に込められていました



国試合格100%!!



第61期生(3年生)27名の学生も、自分達の願い事を短冊に書きました

実習で担当した患者さんが「書くこともリハビリ!」と、短冊に願い事を書いてくださいました。前向きな患者さんの姿に嬉しい気持ちになりました!





療育指導室長
前田 勝也

四国重症心身障害研究会の ご紹介

7月5日に高知市で第33回
四国重症心身障害研究会が
行われました。この研究会

は、重症心身障害児（者）（重度の知的障害と重度の肢体不自由が重複した状態にある方）の入所施設職員の会となっており、重症心身障害児（者）に関する研究発表や講演会を行うことで、医療と福祉の向上や、知識の普及を図ることを目的としています。はじまりは平成4年で、当時四国内に5つあった国立重症心身障害児（者）療養所の情報交換の場として発足しました。それから回を重ねるごとに参加施設が増え、現在四国内10施設合同開催となっています。

今回の研究会では、四国各地から124名の職員が集まり、22題の研究発表が行われました。当院からも4題発表させていただきました。研究内容は多岐にわたり、例えば、重度の知的障害があるがゆえにとらえがたい意思のとらえ

方、いわゆるコミュニケーション方法や、日々の活動の工夫、地域と繋がるための工夫、食に関すること、重度の障害によって生じる医療の提供に関することなどたくさんの研究や取り組みを聞き、学ぶことができます。

重症心身障害児（者）入所施設は、各県に1施設から4施設と少ないため、各施設の取り組みや事例は、それぞれの施設にとって参考になることも多く、入所されている方々の生活を豊かにしていくことができる貴重な情報となります。この横のつながりを絶やすことなく、40年、50年と続けていくことが、入所されているご利用者のよりよい生活に繋がっていく一つになるものと思っています。

そして、このような機会を通じて重症心身障害児（者）と言われる方々を、皆様に知っていただくことで、重症心身障害児（者）の方々のよりよい生活に繋がればと願っております。



産後ケアを始めました！



4階南病棟 副看護師長
畑中 麻里子

「産後ケア」という言葉を聞いたことはあるでしょうか？
産後ケアは、出産後1年を経過しない母子に対して心身のケアやサポートなどを行い、産後も安心して育児ができるように支援する事業のことで、ここ数年で全国的に取り組みが広がっています。

当院は新生児集中治療室（NICU）を併設しており、予定よりも早く出産となる妊婦さんを受け入れています。また、出産費用の補助を受ける必要がある方や、出産後に周りの援助を受けられない方など、妊娠・出産・子育てに関する不安を持っている方々も受け入れているため、退院後も地域と連携したサポートが必要です。さらに、産後のお母さんは睡眠不足や疲労といったご自身の悩み事や、授乳がうまくできない、赤ちゃんが泣き止まないなどの育児に対する悩みを抱えていることが多く、退院後も助産師による支援が求められています。

このようなお母さん、赤ちゃんをもっとサポートしていきたいと考え、当院でも2024年10月より産後ケアを開始しました。

開始にあたっては、産後ケア担当グループを結成し、提携する高知市との情報交換やスタッフ間での勉強会、意見交換を行いながら検討を重ね、準備を行いました。利用いただくお部屋にはソファやマットレス、無料の冷蔵庫を設置し、お母さんと赤ちゃんがリラックスして過ごせるようにしています。また、産後に適した食事とおやつを提供するために、産後ケア用の特別食をご用意することができました。利用いただく際には、手続きや会計がスムーズにでき



るように、医事との連携も行っています。

現在までに2組のお母さんと赤ちゃんにご利用いただき、休息の希望、授乳方法や母乳についての相談がありました。そこで、赤ちゃんを一時的に預かり、お母さんが食事やシャワー、睡眠の時間を確保できるようにサポートしたり、母乳をどれくらい飲んでいるかの計測や乳房マッサージ、授乳方法の相談にのったりしました。お母さんからは「ぐっすり眠れた」「母乳育児への自信がついた」といった声があり、「また利用したい」と言っていただけました。

詳しい内容や利用方法については、病院ホームページに掲載しております。また院内においてポスター掲示と共に、QRコード付きのリーフレットを外来や病棟で配布しております。そして今年度7月からは、土佐市といの町の方の受入れも開始しましたので、是非多くの方に利用して頂きたいと考えています。





産科医長（医局長）
滝川 稚也

DX推進委員会活動報告

DX推進委員会では業務の軽減および効率化のためICTの活用を実践しております。

1. 当院では2020年頃より、YUBI (<https://intro.dr-ubie.com/>) 提供のAI問診を実施しております。発熱外来はもとより職員の受診前問診に活用していただいております。

2025年6月より本格導入に向けて、基本的に新規患者さん全てにAI問診導入を実施してまいりました。利用患者さんは前月比で月間700件程度と2倍以上に増加しております。

問診に必要な時間は平均で8分程度、12分以内にほとんどの方が終了しています。利用の感想に関しても90%程度のかたが、簡単だった、まあまあ簡単だった、と良好なものでした。

私たちが危惧していたより受け入れは良好との結果が出ています。

一方、診療がスムーズに進んでいる場合はAI問診を待つより、直接、問診をした方がお待たせする時間が短くなる、あるいは特異的な問診項目がありAI問診が習得するまでのタイムラグがあるため使いづらさを感じている診療科、患者さんもいるようです。臨機応変に対応し、円滑な

診療のためのツールであることを忘れず活用していきたいと考えております。今後も随時見直しを図ってまいります。活用可能な診療科を中心に利用範囲を拡大していただければと考えております。

2. 電話再診の中止に伴いCLINICS (<https://clinics-cloud.com/>) による遠隔地診療へ移行をしております。患者さんご自身のスマホにアプリをインストールしてアプリより予約、テレビ電話を用いてライブ動画で診察、診察終了後に処方（現在は物理的に送付です。次回電子カルテアップデート後、電子処方箋に変更予定です）、アプリ上で決済を行っております。

実施される先生はe-ラーニングを受けていただく必要があります。現在、必要な先生は順次認定されております。

DXは変化の多い分野です。今後も時流の変化に乗り遅れないように、情報発信をしてまいりますので、改善希望がありましたらDX推進委員会の方へご連絡ください。

今後ともご協力をお願いいたします。





医療安全管理係長
濱口 かおり

転倒・転落予防活動

医療安全管理室では10年以上前から転倒・転落予防に対して活動を続けています。具体的にはベット周りの環境を患者さんの身体的状態、精神的状態に合わせた対応をとっています。

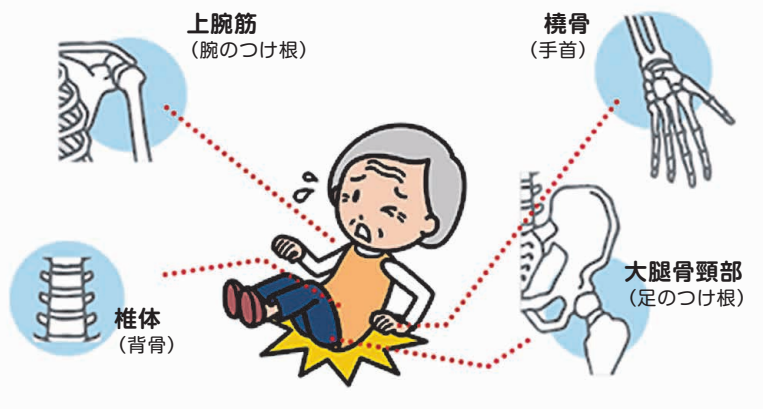
実際に入院される患者さんの高齢化が進み、認知機能の低下をきたしている方が増えている現状があり、転倒リスクのアセスメントができているか、また入院環境が整っているかを、医療安全管理室会の転倒・転落事故防止グループが毎月各病棟のラウンドを行っています。



また、外来患者さんでご注意頂きたいことは、エスカレーターでの転倒です。2階外来へはエスカレーターを上がって頂くのが一番導線が短いですが、お足元のご不安な方は、是非とも中央エレベーターをご利用ください。年間で多くはないですが、エスカレーターでの転倒が毎年発生しています。転んでしまって骨折等を起こすことで、筋力低下をきたし、より一層足元に不安を感じるようになってしまいます。

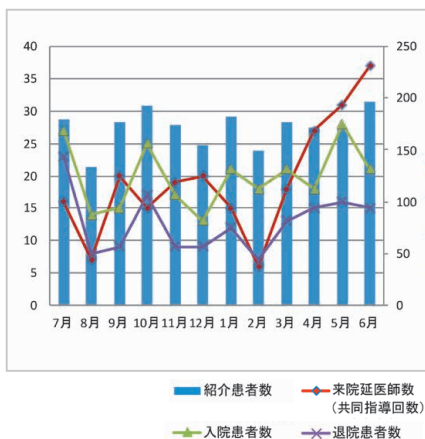
現在は音声での案内や、掲示物も増やし、患者さんに注意喚起をおこなっていますので、何卒宜しくお願い致します。

今後も患者さんに安心、安全な環境を提供できるように努めてまいります。

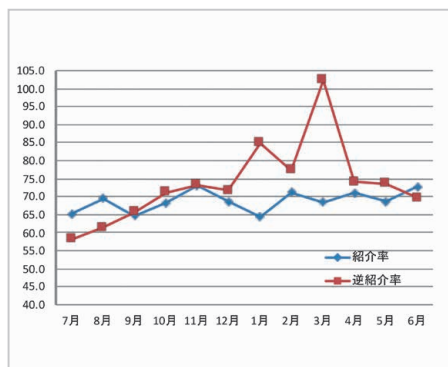


地域連携等概況

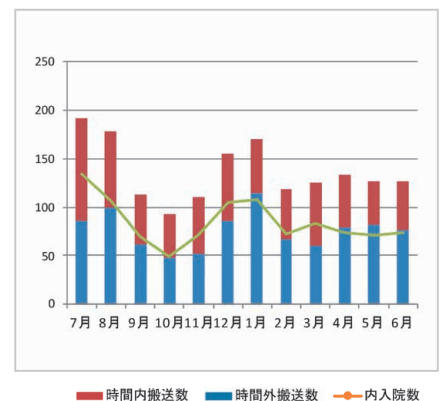
オープンシステム利用状況



紹介率・逆紹介率



救急搬送受診者数



外来診療担当表

■受付時間／8:15～11:00

■休 診 日／土曜・日曜・祝日
・12月29日～1月3日



独立行政法人
国立病院機構

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
<https://kochi.hosp.go.jp/>

高知病院



令和7年 7月 1日現在

診 療 科	区分・診察室番号			月	火	水	木	金
内 科	午前	1 診	⑧・⑪		小松 直樹		篠原 勉 (第1・第3週) 竹内 栄治 (第2・第4週) ※第5週はありません	
		特別外来	⑩		岩原 義人 (血液)	松森 昭憲 (糖尿病)	岩原 義人 (内科)	
	午後	専門外来	⑥			化学物質過敏症 (予約制)		
神 経 内 科			⑩	不定期 (院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼 吸 器 内 科 ア レ ル ギ ー 科	午前	1 診	⑧	岡野 義夫	竹内 栄治	畠山 暢生	竹内 栄治	門田 直樹
		2 診	⑥		高橋 啓輝	新居 香織	町田 久典	
	午後	専門外来	⑫					畠山 暢生
消 化 器 内 科	午前		⑨	林 広茂	池田 敬洋	高橋 早代	高橋 拓	池田 敬洋
循 環 器 内 科	午前		⑦	山崎 隆志	中岡 洋子 (第1・3火曜)		山崎 隆志	
	午後		⑥					古川 敦子
			⑦				ペースメーカー (第2木曜)	
リ ウ マ チ 科			⑩	松森 昭憲				松森 昭憲
小 児 科	午前	1 診	①	大石 尚文		小林 希	小倉 英郎 (アレルギー・化学物質)	大石 尚文
		2 診	②	佐藤 哲也 (第2・4月曜)	高橋 一平	佐藤 哲也	前田 明彦	高橋 芳夫
		3 診	③	高橋 一平	林 奨之	小倉 由紀子 (アレルギー)	第3週 医大医師 (神経)	前田 明彦
		専門外来 (予約制)	②	第1・3週 医大医師 (神経)				
	午後	専門外来 (予約制)		大石 尚文	小倉 由紀子 (アレルギー)	佐藤 哲也 (乳健・他)	小倉 英郎 (アレルギー・化学物質)	大石 尚文 (乳健・他)
				小倉 由紀子 (アレルギー)	佐藤 哲也 (院外出生乳健・他)	高橋 芳夫 (乳健・未熟児)		前田 明彦 (乳健・他)
			第2・4週 医大医師 (循環器)		林 奨之 (検診・予防接種)	小倉 由紀子 (アレルギー)		
			予防接種	14:00～16:00 (予約制)	14:00～16:00 (予約制)	14:00～16:00 (予約制)	14:00～16:00 (予約制)	14:00～16:00 (予約制)
外 科 消 化 器 外 科 小 児 外 科	午前		⑤・⑥ 金⑦	東島 潤	福山 充俊 (クーポンがん検診) (乳腺外来)	福山 充俊	石川 大地 (クーポンがん検診)	金本 真美 (肝臓・胆道・脾臓外来)
呼 吸 器 外 科	午前		⑧		先山 正二		先山 正二	先山 正二 (予約制)
			⑦		日野 弘之		日野 弘之	
	午後		⑥			南城 和正	南城 和正	
乳 腺 科	午前		⑤	本田 純子 (クーポンがん検診)		本田 純子 (クーポンがん検診)		
	午後		⑤					本田 純子 受付15:30まで (クーポンがん検診)
緩和ケア内科 乳 腺 科	午前		⑤					小河 真帆 (予約制)
整 形 外 科	午前		①	福田 昇司 (予約制)		加納 将嗣	福田 昇司	川真田 純
	午後		②				溝淵 周平	
脳 神 経 外 科	午前	1 診	⑧			非常勤 診察時間 9:00～11:00 (予約制) 予約外の方はお問い合わせ下さい		
	午後		⑧					非常勤 受付16:00まで
皮 膚 科 【全曜日予約制】	午前		⑬			高知大学医師		石元 達士 (第1・3週)
			⑫					高知大学医師 (第2・4・5週)
泌 尿 器 科	午前	1 診	⑨	大河内 寿夫	石黒 基純	大河内 寿夫		大河内 寿夫
		2 診	⑧					石黒 基純 診察開始 10:00～
産 科	午前		③⑤	滝川 稚也	滝川 稚也	山中 絵里加 1ヶ月検診	甲斐 由佳	木下 宏実
婦 人 科	午前		③①	木下 宏実 (クーポンがん検診)	甲斐 由佳 (クーポンがん検診)	木下 宏実 (クーポンがん検診)	滝川 稚也 (クーポンがん検診)	山中 絵里加 (クーポンがん検診)
	午後							ユースクリニック (予約制)
眼 科	午前		②③	戸田 祐子	戸田 祐子 (予約制)	戸田 祐子	戸田 祐子 (予約制)	戸田 祐子
耳 鼻 咽 喉 科	午前		⑬	福田 潤弥 福原 史拓	福田 潤弥 福原 史拓	福田 潤弥 福原 史拓	福田 潤弥 福原 史拓	福田 潤弥 福原 史拓
放 射 線 科					高知大学医師			高知大学医師

※ 市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日 外科外来／乳腺科外来にて行っています。診察も希望される場合は事前に外来までお問い合わせください。

※ 当日の受付は午前11:00までとなっております。